

自治医大付属病院 小児生体肝300例達成

臓器移植法施行から20年

1997年に臓器移植法が施行されて20年。自治医大付属病院は2001年に小児(18歳未満)の生体肝移植を始め、今月には300例に達した。昨年から成人の生体肝移植にも本格的に着手し、今後は成人を含めた脳死肝移植実施施設の認定を目指すなど、拠点としての実績を重ねている。同大移植外科の水田耕一教授に肝移植の現状や課題を聞いた。

(外山雅子)

同病院ではこれまで小児 歳未満が65%を占める。原一ターらが連携し、患者の脳死肝移植2例を含めて 疾患は、新生児や乳児期早期に発症する胆道閉鎖症が302例の肝移植を実施。7割と最多。居住地は埼玉、生体肝移植の10年生存率は生後9日から64歳で、2千葉、東京など9割が本県は16年12月までの統計で全

成人実施施設目指す

脳死肝

拠点として実績蓄積へ

以外だった。

生存率全国1位

ドナーは母親が145人、父親が139人。両親が提供できないケースもあり、祖母、おばなどがドナーになった例もある。ドナーの最高齢は58歳。血液型不適合の移植も51例あった。レシピエントは免疫抑制剤を生体内服しなければならぬ。小児の場合、体形を気にしたりして自ら薬を飲まなくなるケースが問題となっており、思春期以降の女子も多く、水田教授は「医師やコーディネ



母親から生後5カ月の女兒に肝移植された300例目の生体肝移植手術(4日、自治医大付属病院(同病院提供))

国平均が72・8%で、同病院は95・4%で全国1位。小児に高い傾向があるが、その理由として挙げられるのは定期的な「肝生検」。肝臓の細胞や組織を調べることで、血液検査では分からない隠れ拒絶反応に早く対応できるという。

到達率低い成人

成人の生体肝移植の原疾患



水田耕一教授

脳死肝移植認定施設は全国に25施設あるが、同病院は小児限定。3年間の成人の生体肝移植が10例以上、1年生存率80%以上など基準を満たし、審査に通れば成人も含めた施設認定を受けられる可能性がある。同大はこれまで7例を実施しており、年度内に3例行う予定だ。

高齢者の貧血が近年、改善傾向にあることが、国立健康・栄養研究所の分析で分かった。おかずを多く取る食生活が広がって穀物摂取が減る一方、貧血を予防する鉄質が豊富な肉や野菜の摂取が増えたことが影響したとみられている。

最新の乾癬治療学ぼう

最新の乾癬治療について理解を深めようと、第20回とちぎ乾癬友の会学習懇談会が11月5日午後2～4時55分、下野市薬師寺の自治医大教育研究棟で開かれる。東海大医学部皮膚科学の馬淵智生教授が「ここまで来た乾癬治療! 外用・内服・シャンプーまで!」と題して講演するほか、群馬県乾癬友の会からつ風の会の角田洋

質疑応答の時間や、自治医大皮膚科学教室の大槻マミ太郎教授に相談できるプライベートコーナーも設ける。無料。事前申し込みが望ましい。ファクス(028・662・2258)、郵送(〒321-0954、宇都宮市元今泉6の7の7)、メール(info@tochigikansen.com)のいずれかで、同会事務局へ。

下野市 友の会が懇

とちぎの在宅医療

2

住み慣れた場所ですっきり暮らしたい、それは皆さんの共通の願いではないでしょうか。

日本では今までにない速さで少子高齢化が進んでいます。栃木県では人口減少の影響もあり2040年ごろに高齢化率がピークを迎



吉田昌広さん

えるといわれています。年を重ねれば、それだけ多くの病気を抱えます。また、病気がなくても何かしら暮らしにくさが生じ、誰かの手助けが必要となることも増えるでしょう。

ところが、高齢者が増える一方で、働き手であり、支え手でもある現役世代が減ることから、現在のよう

地域包括ケア

に病院や施設を中心とした医療・介護サービスを受けることは難しくなると考えられています。

その答えの一つが「地域包括ケアシステム」です。簡単に言うと、自宅や高齢者施設で最期まで暮らし続けることを可能とするための仕組みです。一人一人の希望に寄り添いながら、暮らす場所が確保され、必要な医療と介護が併せて受けられる。このような仕組み

希望を実現する仕組み

作りが、現在、地域の特色に応じて進められています。



地域包括ケアシステムのイメージ図

事などの介助、停止のための介護を欠かせません。うのは、医師、看護師といった専門職ではありません。自治会、ボランティア、地域に住む皆さんに「自分のこと」に加えていただくのです。

自分ならどうしたいかを考えることが、地域に貢献することにつながります。

(原医療政策課 吉田昌広) (毎週金曜

life くらし



健康 health